

大橋川改修事業

環境調査 一次とりまとめ

「大橋川改修の具体的内容」に示した計画を前提に、大橋川改修が中海や宍道湖の塩分を始めとした水環境や、生物に与える影響を確認することを目的に調査・予測・評価を実施し、環境の保全に関する事業者の考え方をとりまとめました。

環境調査の位置づけ

大橋川改修事業は「環境影響評価法」でいう「環境影響評価」の対象ではありませんが、汽水環境保全の重要性に配慮し、環境影響評価法の手続きに準じて実施しています。

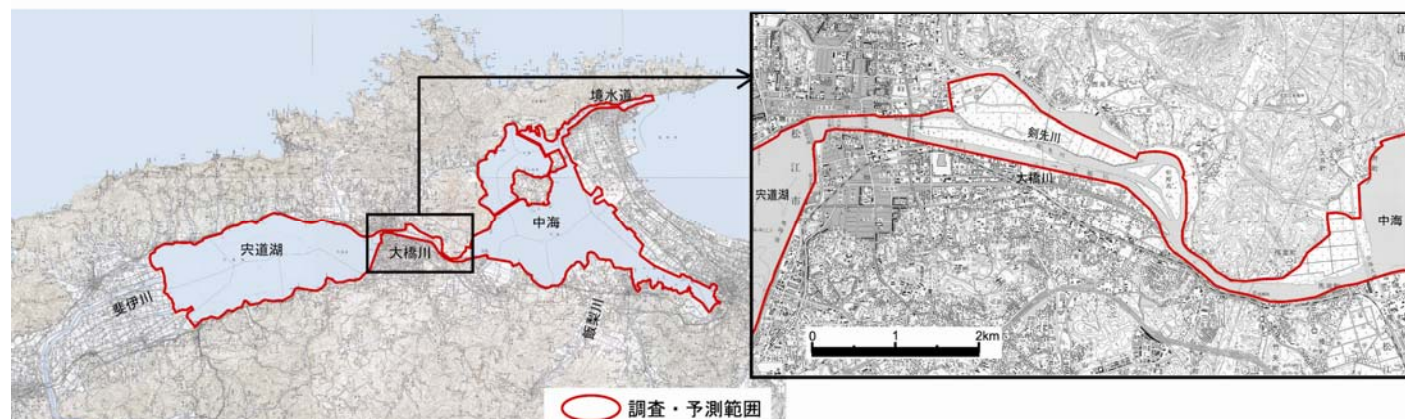
調査によって得られた結果は、「大橋川改修に関する環境検討委員会」で、客観的な評価、指導、助言を得て、事業に反映していきます。

鳥取・島根両県や住民の方々に環境調査の結果を分かりやすく示し、ご意見を伺うなど、今後も「環境影響評価法」の手続きに準じ実施していきます。

環境調査の範囲

環境調査の範囲は、大橋川の河床の掘削、河道の拡幅及び流動変化により影響を受ける可能性のある範囲（宍道湖、大橋川、中海、境水道）としました。

また、流動変化などを予測するため、気象・水象調査は斐伊川流域全体を調査範囲としました。



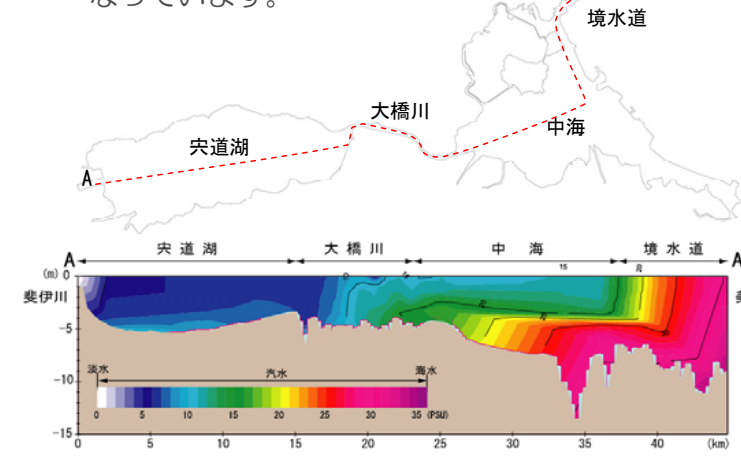
※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地図及び5万分1地形図を複製したものである。
(承認番号 平19 中複 第64号及び平19 中複 第65号)

水環境

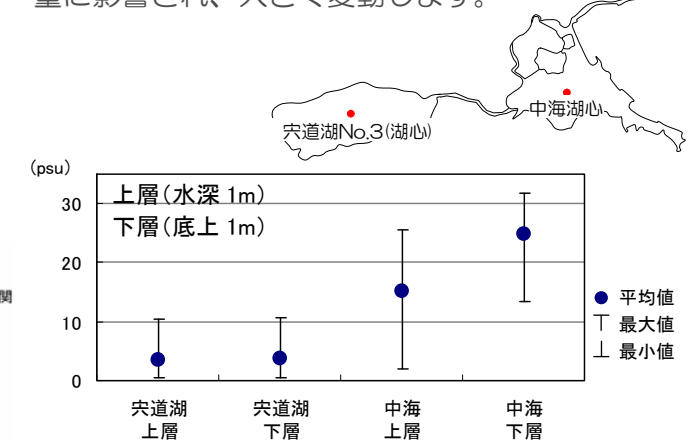
塩分

● 宍道湖と中海は大橋川を挟んで塩分が異なっています。

● 宍道湖から中海の塩分は、流れ込む河川の流量に影響され、大きく変動します。

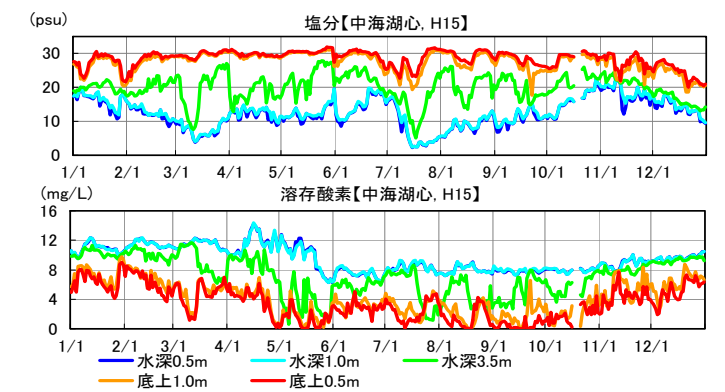
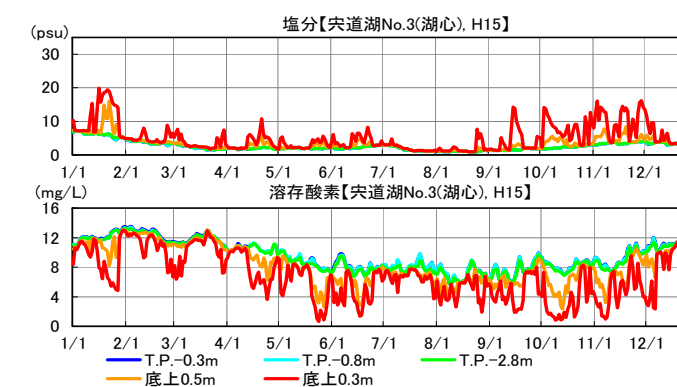


H12.9/30 観測データ (宍道湖 No.3(湖心) 観測所・中海湖心 観測所・船舶からの採水調査等) より作成



注) H1~H18までの各層の月平均値をもとに18ヶ年の平均値・最大値・最小値を表示した。

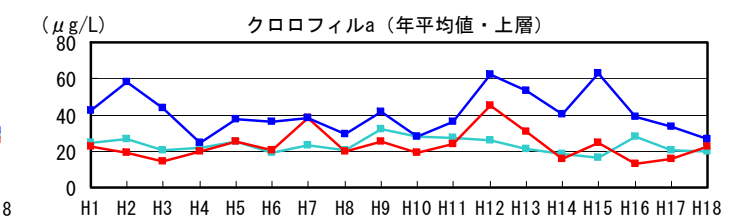
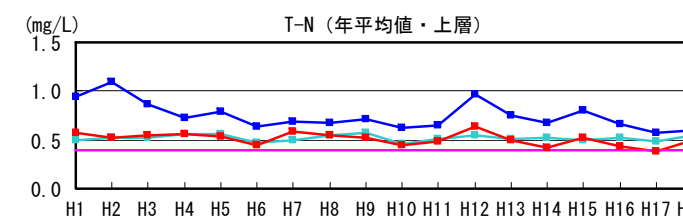
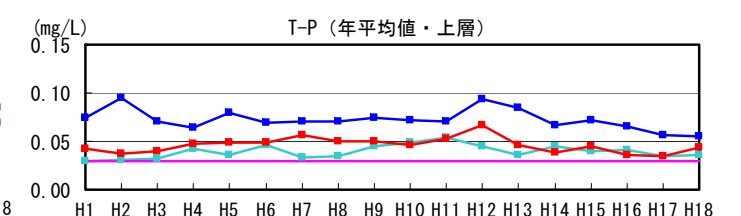
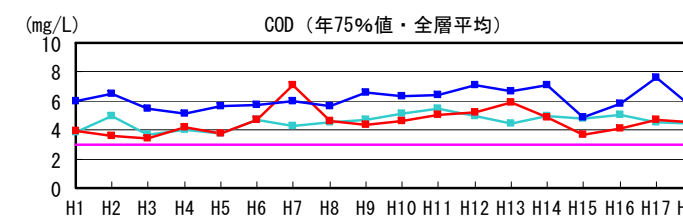
- 宍道湖の塩分層は、湖底に薄く形成され不安定ですが、中海の塩分層は、年間を通じて安定的に形成されます。
- 塩分層の形成と底層の貧酸素化は連動する傾向がみられます。



注) psu とは塩分を表す単位であり、「海水 1kg 中に含まれる塩類のグラム数」に相当します。

富栄養化項目

- 各項目とも水質は環境基準を超え概ね横ばいで推移し、近年大きな変化はみられません。



環境基準 宍道湖No.3(湖心) 中海湖心 米子湾中央